

1. ある技術輸出
2. 運河をきれいに
3. 新しい輸送方法の開発
4. 盛会(?)のかけに



1. 昨年の5月号の本誌今日の焦点で「技術輸出——それは日本土木技術界の悲願である——」をとりあげ、各位へお願いしたアンケートを中心にその問題点をとりあげてみた。また本号特集にあって、日本の土木技術の海外への夢を一部述べていただいた。

技術立国を叫ぶわが国にあって、また国の公共基盤を支え国民の生産活動と安定した生活を願うわれわれ土木技術者にとっても、技術向上は常に願って努力してゆかねばならないところであろう。しかし、その道はけわしく、苦しいようである。このときにあつて、1月25日付で嬉しいニュースが伝えられ、関係者を明るい気持ちにさせている。そのニュースとは、ソニー株式会社からアメリカのIBM社へ、電子計算機用磁気テープに関する技術供与がなされたというものである。すなわち、世界の電子計算機の市場占有率において群を抜くIBM社が、今般メモリーテープの自社製造を開始するにあたり、ソニーが技術を供与すること、新しいメモリーテープを共同研究・開発するための提携という二面からなり、その成果が期待されているものである。

本契約によれば、IBM社よりソニーへ一時金として10万ドル、技術援助料および特許使用料として、一卷当たり10セントの支払いがなされ、その総額は今後数年間で約50万ドルになると予想されているようである。また共同開発・開発の面では、両社が共同して今後の技術向上へ努力するとりきめをしており新しい研究方式の確立の試金石として注目に値する。

何はともあれ、日本からアメリカへの技術輸出はきわめて例の少ないことでもあり、本例を他山の石とし、今後の研究活動に、建設に自信をもってあたられたいものである。 [E]

2. 大都市には運河が沢山ある。どれを見ても下水が入り込み、水は腐り臭くて美観を損することおびただしい。なんとか浄化する方法はないであろうか。

厚く堆積したヘドロを高い金をかけてさらえてみても、また溜ることだろう。月の力をかりて安あがりに行ったらどうだろう。満潮時の海水を貯えて運河上流から流下させる。初度設備費はある程度かかるだろうが、一度設備すれば後は月がひきりけてくれる。こんなことは、真面目に考えられないものであろうか。 [S]

3. 最近、輸送の経済ということに着目して、いくつかの新しい輸送方法が試みられ、あるいは提唱されている。

海運においては、数年前からプッシューバーラインシステム（押航はしけ方式）が調査され、一部ではすでに実用化しており、最近は、また阪神～北九州間の長距離カーフェリーの運航が企画されている。

陸上輸送の面においても、資源調査会は、さきの「工業都市建設におけるパイプライン網の整備に関する勧告」に引き続き、大都市およびその周辺における石油製品輸送合理化のためのパイプライン網についても検討しており、長距離パイプラインについても研究している。石炭輸送合理化のためのスラリー輸送も実用化試験の段階にある。

港湾、鉄道、道路、都市、国土などの諸計画にあたっては、このような新しい輸送方式についても十分評価し、それらに適切に対処できるよう配慮しておく必要がある。 [J]

5. 616編、これが今年の北海道大会の講演数であり、昨年（福岡）を40%強も上まわる盛況ぶりで学術の進展上大変結構なことである。しかし1人10分、会場も4校舎分割のマンモス大会では、もはや学問的交流、成果など望むべくもない。開催時期の検討、運営方法の改善など今にして対策を立てなければ、大学教育のマスプロ化と同じ傾向をたどら。お祭りと割切ってしまうばそれまでだが、「学会」なのである。 [E]